毎日が楽しくなる情報誌
HACHINOHE CHUSHINGURA
well
季刊［はちのへ中心蔵ウェル］

表紙　お料理 七草

vol.113 October 2026

contents＿目次

06 ランチ情報
09 野菜歳時記
10 おせち特集 2027
13 ショッピング情報
14 イベント情報
16 ビューティー情報
18 はちのへ TAKEOUT Gourmet
21 忘新年会情報
29 食育エッセイ
30 食のまち・八戸応援食事券第２弾参加店紹介
34 プレゼント＆クーポン

ホームページ・インスタ公開中！

パソコン
http://www.webwell.jp
ケイタイ
http://www.webwell.jp/mobile/
インスタグラム
@hachinohe.well

南部の昔っ子
nanbu-no-mukashikko
久慈瑛子 作

むこ様選び

昔々、あったず。

ある所に長者が居だったず。長者様には一人娘が居て早く婿をもらいたいと思っていたず。長者様はこの家の財産を守って娘と仲良く出来る賢く智恵のある若者を選びたいと思っていたずもな。

そこで長者様は考えて村や町に立札を立てたず。立札には稲束を一把(わ)をぶらさげて「この稲束を十六把まで増やした者を娘の婿にする」と書いたず。

さぁ、あちこちの村や町から「我こそは婿に」と若者が押し寄せてきたけど、誰一人答えを出した人はいながったず。

ところがある日、ぶらりとやって来た若者が立札を見ていたが、ふらりと長者の庭先に立ち「頼もう」と叫んだず。長者様が座敷の戸を開けると侍らしい若者が立っていたず。そして「私を婿にして下さい」と云ったずもな。

「ほう、稲束を増やすことが出来たかな？」と長者様が云うと、「はい、門をくぐってふらりと庭(にわ)(二把(にわ))へ見れば納屋には鍬(くわ)(九把(くわ))があり、座敷に在すだんな様には皺(しわ)(四把(しわ))がござる。それに立札の一把加えて十六把」と云った。

これには長者様もびっくり。見れば身なりはくたびれているが、顔立ちはしっかりと賢そうだった。長者様は淡々としたこの若者に合格を出そうとしたら、なんと隣の室で隙見をしていた長者様の母親が突然飛び出してきて「おばばにも皺(四把)ござる」と云ったず。すかさず長者様は云った。「正解は十六把じゃが、おばばの四把を足して二十把じゃ。これができなければ不合格じゃ。いかがする？」と云ったず。

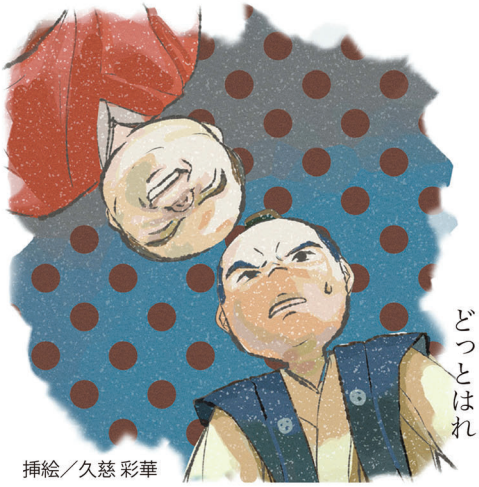
若者は、はたと困ったずもな。周りを見回しても何もない。何も浮かばない。とその時、庭の奥から「コケコッコー」と鶏が走ってきたず。すかさず、若者は鶏(にわとり)(二把取(わと)り)くださいと云ったずもな。長者様も「これで十八把」と叫んだ。

とその時、庭奥から鶏を抱いた長者様の娘がその若者に近づいて来ておずおずと抱いていた鶏を若者に持たせたず。若者は鶏を受け取りながら「だんな様、鶏（二把取り）ください」と云ったず。長者様は「おう。二把取って十六把、正解じゃ。合格じゃ」と大声で云ったず。

若者は鶏を飛ばしたり抱かせてくれた娘の手を取り「娘ご、助けてくれてありがとう」と云ったず。娘は真っ赤になってうなづいたずもな。

さて、長者様は娘が若者を好いて助けたことが嬉しく、とっさに気転の効く若者を気に入ったず。そして、この二人ならこの大きな財産を守っていけると安心したず。そしてすぐ祝言を挙げたずもな。めでたし、めでたし。

どっとはれ



挿絵／久慈 彩華